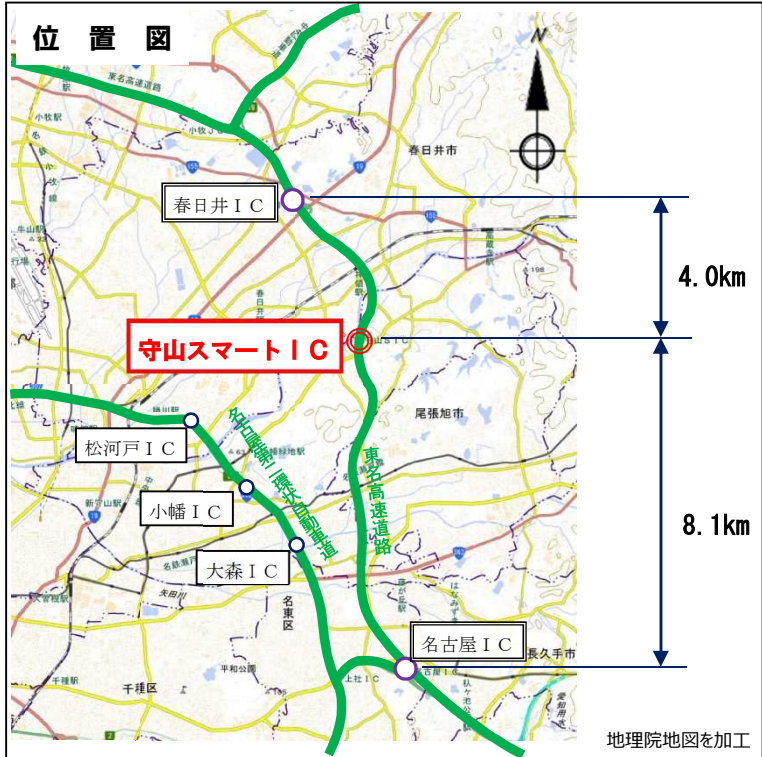
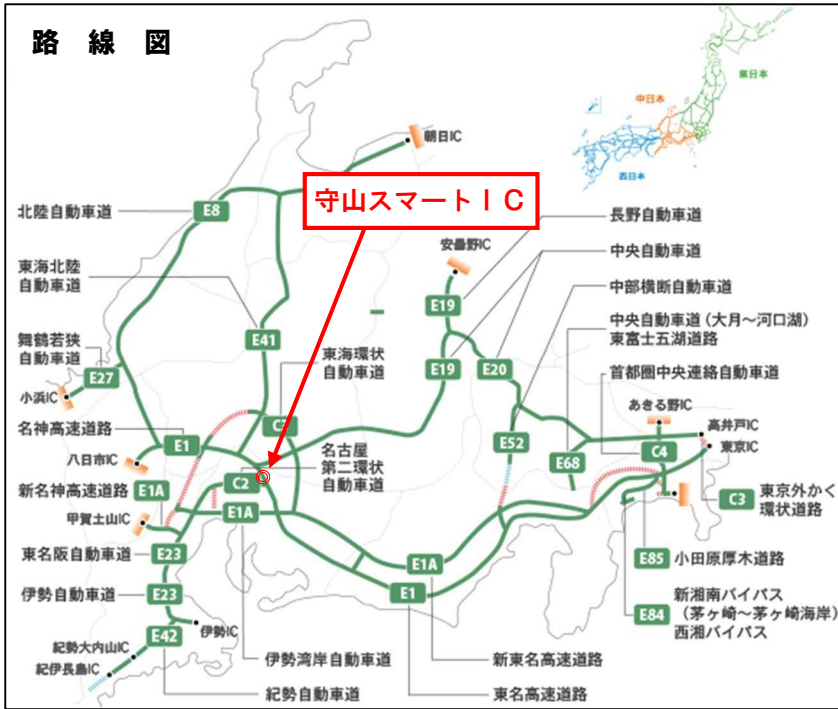


守山スマートICの位置・概要



地理院地図を加工

概要

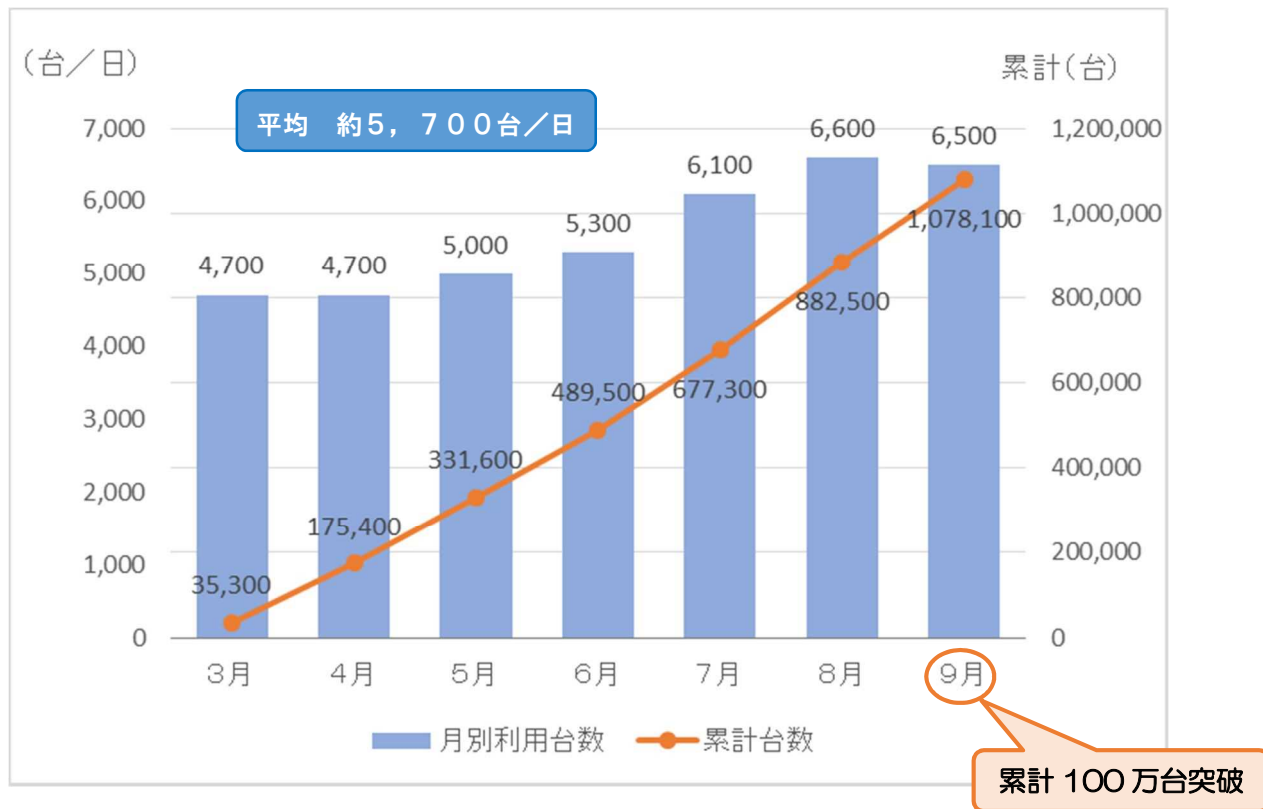
道 路 名	E 1 東名高速道路
接 続 位 置	守山パーキングエリア
接 続 道 路	市道 志段味環状線
利 用 方 向	全方向（東京・大阪方面出入口）
利 用 時 間	24時間
対 象 車 種	E T C車載器を搭載した全車種
供 用 開 始	平成30年3月24日

1. 守山スマートICの利用状況

(1) 利用交通量

- ・開通後約6か月間の平均利用台数は約5,700台/日であり、月ごとの平均利用台数は概ね増加傾向にある。
- ・利用台数の累計が100万台を突破した。

(平成30年9月末までの累計利用台数：約108万台)



(注) 3月の利用台数は、開通日翌日の25日から31日までの平均値。

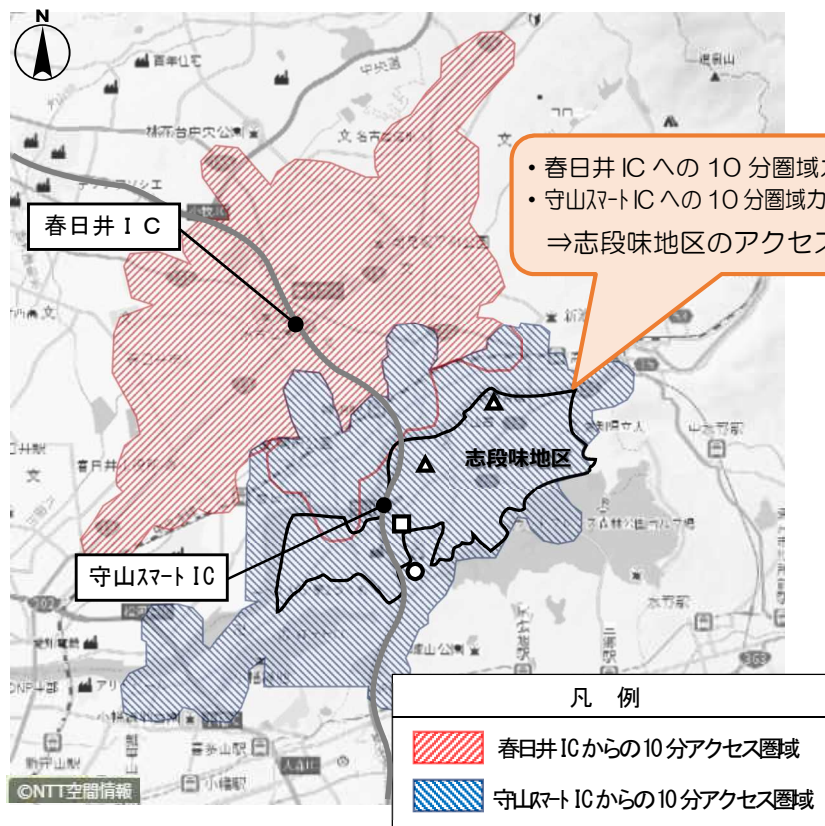
ただし、累計台数には開通日の24日の値を含む。

2. 守山スマートICの整備効果

(1) 東名高速道路へのアクセス利便性の向上（10分アクセス圏域の拡大）

・守山区志段味地区におけるE1東名のICへの10分圏域カバー率が、守山スマートIC整備前の5%から100%に拡大し、地区内の全域から10分でアクセス可能となった。利便性の向上により、商業施設の集客及び商圈の拡大や新規開発（出店）の促進など、地域の活性化に貢献していると考えられる。

■志段味地区からE1東名のICへの10分アクセス圏域の変化



出典：ETC2.0プローブデータ（2018.7 平日昼間12時間）

■地元企業・商業施設の声

□【アルペンモール守山志段味（複合商業施設）】

- ・以前は、大半が地元のお客様でしたが、商圈が広がり遠方からのお客が増えています、また土・日だけでなく、平日のお客も増え、売り上げも増加しています。
- ・スマートICの整備計画は、当地区への出店を決定した要因の一つでした（H29.3開店）。

○【ホームプラザナフコ守山店（大規模小売店舗）】

- ・当店の主力商品である家具の搬入やお客様への配達で、従来から高速道路をよく利用しており、これまでは主に春日井ICを利用していたのですが、スマートICができて時間短縮や業務効率の向上が図られていると感じています。

△【パナソニックホームズ(株)（ハウスメーカー）】

- ・守山スマートICによって、高速道路によるアクセス利便性が大きく向上することは、当地区の重要なアピール要素だと考えており、宣伝用パンフレット等でスマートICを記載し、PRさせてもらっています。
- ・お客様からも「便利になった」、「この地区の発展が期待できる」という声を頂いています。

出典：名古屋市によるヒアリング結果



～志段味地区の概要～

守山区志段味地区では、ひと、自然、科学がとけあう環境の創造を目指し、「志段味ヒューマン・サイエンス・タウン」として、名古屋市が官民連携によりまちづくりを進めています。

当地区では、基幹的な公共交通として「ガイドウェイバスシステム」の整備や、基盤整備や良好な住環境の形成を図る組合施行の「特定土地区画整理事業」、産業振興のための研究開発拠点を形成する「なごやサイエンスパーク事業」などが一体的に進められています。

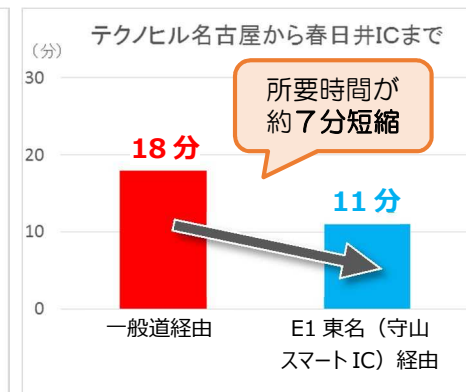
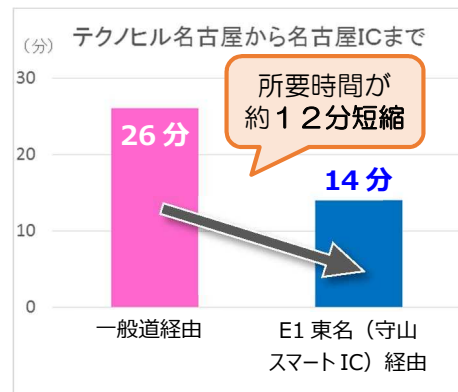
(2) 東名高速道路へのアクセス利便性の向上（速達性の向上）

・志段味地区のテクノヒル名古屋（企業団地）では、E1東名の最寄りICへのアクセス時間が約7分～12分短縮したことにより速達性が向上し、輸送効率の向上や移動コストの削減など、地域企業の生産性向上に寄与していると考えられる。

■テクノヒル名古屋からE1東名のICへの所要時間の変化



出典：ETC2.0プローブデータ（2018.7 平日昼間12時間）



～テクノヒル名古屋とは～

守山スマートICが整備された守山区志段味地区では、特色ある研究開発拠点の形成を目指して、名古屋市により「なごやサイエンスパーク事業」を進めています。

テクノヒル名古屋とは、なごやサイエンスパークの中で、研究開発型の民間企業が集積する団地です。

- ・所在地：名古屋市守山区花咲台二丁目、平池東地内
- ・事業面積：約10ヘクタール
- ・立地企業数：21企業 全区画の契約完了

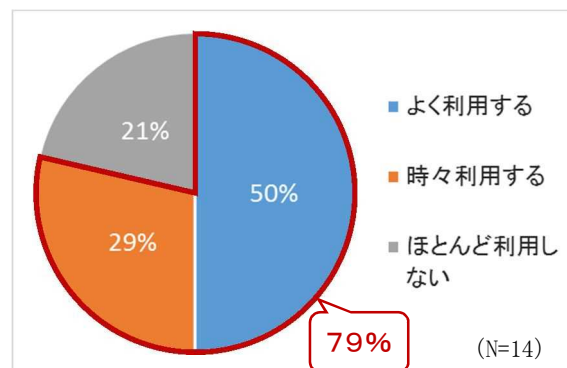


■テクノヒル名古屋に立地する企業へのアンケート調査結果

テクノヒル名古屋に立地する企業を対象に、守山スマートICに関するアンケート調査を実施した。(有効回答数：14社)

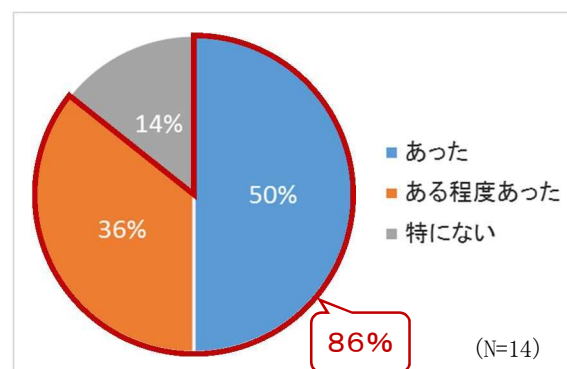
ア 利用頻度

- ・約8割が「よく利用する」又は「時々利用する」と回答している。



イ 業務におけるメリットの有無

- ・8割を超える企業が業務におけるメリットが「あった」又は「ある程度あった」と回答している。
- ・自由記述において、回答のあったほとんどの企業が移動（輸送）時間の短縮をメリットとしている。



■テクノヒル名古屋に立地する企業の声

【A社】

- ・中間製造品の運搬のため、東名・一宮IC近くにある企業との間を毎週往復しているのですが、これまでの春日井IC利用に比べて輸送効率が大きく向上しました。
- ・名古屋IC近くの行政機関に簡単な手続きで出向くことも多く、以前は片道40分程かかっていたのが、今は要件を済ませて同じ位の時間で戻って来ることができます。

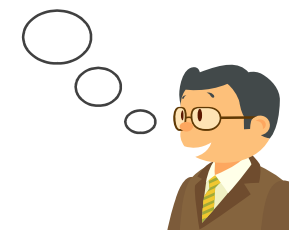
【B社】

- ・ほぼ毎日、高速道路を利用して全国各地に出張していますが、スマートICによって大幅に移動時間を短縮でき、社員の負担も軽減されています。
- ・車で来社される取引先の方が多いので、お客様の利便性向上という点でもメリットに感じています。
- ・本社の移転（H21.3）に当たって当地を選んだ理由の一つとしては、スマートICの計画があったからです。

【C社】

- ・豊田市方面の取引先が多いので、東名・名古屋ICや一般道を利用して、片道1時間程かけて出張していましたが、30分程に短縮されました。コスト削減等のメリットは大きいと思います。
- ・当地区への本社移転（H21.6）に当たっては、スマートICが整備されることを期待していました。

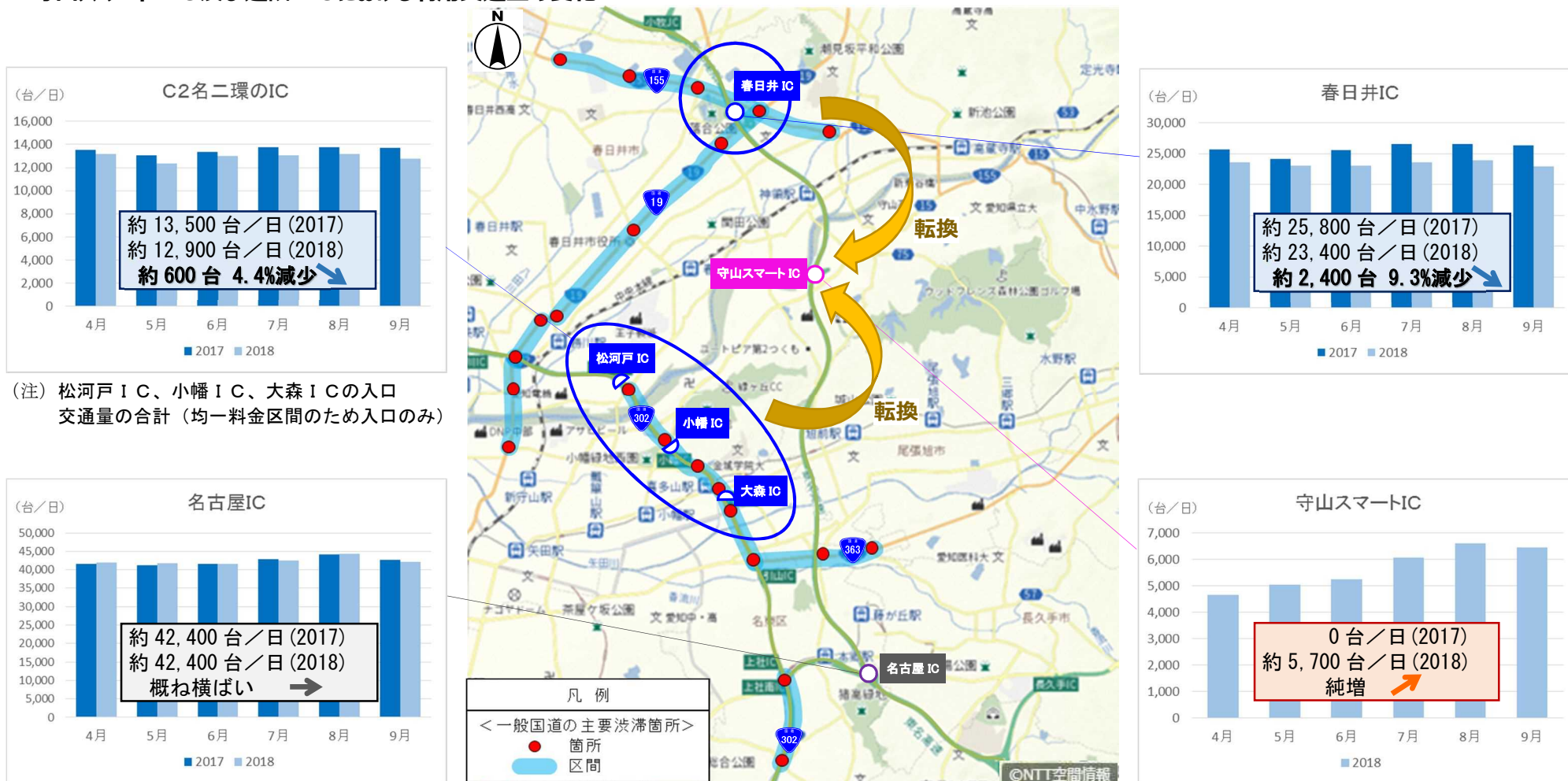
出典：名古屋市によるヒアリング結果



(3) 利用 I C の転換・分散

- ・守山スマート I C の利用交通量は、開通後約 6 か月間の平均で 1 日あたり約 5, 7 0 0 台となっている。
- ・守山スマート I C の開通後、近隣 I C の利用交通量の変化を前年同時期と比較すると、主要渋滞区間（国道 1 9 号・3 0 2 号等）を主なアクセス経路とする春日井 I C 及び C 2 名二環の I C（松河戸・小幡・大森）で減少している。これは、守山スマート I C の整備による E 1 東名へのアクセス利便性の向上により、利用 I C が分散化したことによると考えられる。

■ 守山スマート I C 及び近隣 I C における利用交通量の変化



(注) 整備前の利用交通量は、2017年4月から9月までの平均値。整備後の利用交通量は、2018年4月から9月までの平均値。